



第82回 わいわいトーク

～知っ得! なっ得! 子育てトーク～

「ママ友との付き合い方」をテーマにわいわいと話しました

(2016・9・16)

Index

とびらの写真(わいわいトーク) 1

巻頭言 「最近 勇気づけられたこと」 (E・Y) 2

APIS 報告 ～アディクションについて『語る本』の図書館～に参加して (野中ひとみ) 3

APISのお知らせ 子育てサロンに遊びに来てね (後藤真幸) 4

会員からの報告 「初夏の北政」第91回ピースボートクルーズから帰ってきました (池田美とり) 5

APIS 報告 「スポーツはいつも楽しく」 (横山恵子) 6

APIS 報告 APIS 引越奮闘記 (佐々木興子) 7

わいわいトーク リメイクBOX 作り参加者の感想 7

活動記録 8



『第15回日本アクション看護学会学術集会』in 武庫川女子大学
特別企画 アクション・ライブラリー

～アクションについて『語る本』の図書館～に参加して

日時:2016年9月3・4日

場所:武庫川女子大学



APIS が発行した「生きている図書館実施ガイド～暴力・対立防止、多様性の理解を深めるために～」を参考にした「アクション・ライブラリー」が開催されるということで、一番乗りの勢いで参加申し込みをした。

「生きている図書館」は、暴力・対立防止、多様性理解のためのアクティビティ。偏見で見られやすかったり、差別されやすい人が「本」となり、「読者＝人」が「本＝人」を「読む＝対話する」のである。そして、自分の中の偏見と出会ってみましょう！というものだ。これは、2000年に行われたデンマーク最大の音楽祭の催しの一つとして、青少年教育を目的に活動している団体によって開催されたのが始まりだ。



さて、当日。

アクション・ライブラリー会場受付へ1時間前に行くと、すでに数名の方が待っておられた。(生きている図書館の人気ってやっぱすごい!!)と嬉しくなった。ソファに座り、貸し出しされる本のタイトル表から、どれを借りようかと悩んだ。当事者の本が6冊、当事者の家族の本が2冊、援助者の本が3冊。タイトル表の他、必要な文書類が並んでいるのも確認した。

ふと、私は自分の心の踊りように気付き、その理由は何かなと考えてみると、APIS で開催した「生きている図書館」のことが頭に巡った。

開催するまでの準備に1年近い期間を要し、全人格がこの事業になるかのごとくエネルギーを注いだ日々。小さなNPOでも、こんなすごいことが出来るんだと感動したのだった。

そうしているうち、時間も迫り、人もたくさん集まってきた。隣に座っておられた方のところへ主催者が挨拶に来られ、会話が耳に入った。「自分の大学でもこのライブラリーをやりたい。どうしたらいいか教えてほしい!」「実は、日本で初めてこれをやった APIS っていう NPO に話を聞きに行ったのよ」

思わず立ち上がり、二人の間に入ってしまった。「あの～私、APIS の野中って言います…」大変な盛り上がりであった。「生きている図書館」は生き続けているんだと喜びに震えた。

受付時間となり、希望通りの本を借りることができた。タイトルは『性的な物語への依存』。初めて読む本だったので、自分の中の読みにくさを感じたが、本の率直な語りと、長い間苦しめられたのであろうと感じるほど整理された内容、そして、質問に正面から答えてくださり、そのまんまを素直に受けとめることができた。最後の方には、読みにくさは消えていた。

次に借りたのは『覚せい剤依存からの回復』。薬物中毒回復者の本は何冊か読んだことがあるが、どれも同じものはない。しっかりと自分のことを語る本に、たくましさを感じた。人は回復するのだという信頼への自信が増幅した。また、読者は3人まで一緒に読める。自分以外の読者が、本に相談したりして本と読者が入れ替わる瞬間もあり、面白いなと思った。

本の人と自分の違いを考えてみた。違っていて、誰と並んでみても違うものだ。ただ、本になっている人は、生きづらさを持っている。その生きづらさは何故生まれたのだろう。生ませたのは？